

リレーコラム No.9 (令和元年度)



障がいのある人の安心できる体制の構築にむけて

一般社団法人鳥取県手をつなぐ育成会 会長 大谷喜博

リレーコラム掲載にあたり鳥取県手をつなぐ育成会の紹介を少しさせていただきます。私たちの団体は、全国組織から、県内各地区に支部をもち知的に障がいのある人たちと共に家族、家族以外の支援者、本人等、知的に障がいのある人を中心として国・県・市町村などへ様々な要望を行い障がいのある人を取り巻く環境や家族の負担の軽減や家族で参加できる場所やイベント、研修会等を行っています。

今日に至るまでの間は、特別支援学校、養護学校とのつながりも以前は多くの方が育成会の会員で、職員も賛助会員としてサポートしていました。今では当たり前のことがない時代でした、特に地域の学校へ行くことができずほとんどの子どもたちが養護学校へ行くことしかできず交流もなかなかできないのが現状でした。通学についてもスクールバスはなく路線バスを使い許可が出るまで親が同乗していました。また放課後、長い休みの間のサービスもなく保護者がアルバイトをお願いしてクラブを開催するのがやっとでしたが、学校、保護者会と育成会がつながっていましたので、数多くの陳情を共に行い改善に努めてきました。

時代の流れと共に活動内容が変わり、学校と育成会のつながりもなくなってきました。それに伴って会員も激減しました。

現在は保護者も障がいのある子どものサービス等は、役所に行けば教えてくれる、学校が何とかしてくれる、数人のLINE等SNSのつながりがあってもそれ以上必要でないと思っている等、今の環境で大丈夫でしょうか。入学時では、単式複式学級・特別支援学級・特別支援学校の選択、親の気持ちでなく本人の状況を考え一番落ち着いて勉強や生活できる学校選びが大事となりますが、状況に応じて特別支援学校から特別支援学級へ転校もできますのでいろいろな情報を取ることも選択肢の一つです。

ほんとに今必要としているサービスは正しいのか、子どもの適性にあっているのか、卒業後は大丈夫なのか、離職や事業所の適合性等、本人にとってより良い情報を取っていくことが大切と考え、育成会では、どなたでも参加できるよう心がけています。親の悩み、不安等については経験者である少し先輩の保護者や支援者の人との情報交換、体験談等必要に応じて開催します。

ここまで、過去の様子を交えて話を出させていただきましたが過去は過去です。しかし現在の取り組みも十年後は過去のものとなり、現在があるのは過去の取り組みがあつてこそ成り立ちます。新しい状況をしっかり把握して、次へのステップとしてほしいものです。

続いては、育成会で取り組んでいます安心サポートファイル「あいサポートファイルとっとり」について少しご紹介します。

このファイルは、障がいのある人の乳幼児期から学齢期・青年期・高齢期に至るまで継続して記録・整理し、入学・進学・実習・病院への受診、卒業後の進路やサービスを受けるときの情報、障害者年金の申請等必要に応じて活用できる記録ノートです。

子どものことがわかってほしい、どんな進路が向いているか、新しくサービス受けるときどの様な事を話したら伝わるか、私がいなくなったらどうしてほしいか等、ライフステージを通じて同じ内容の情報が出せます（話すより記録することで）良い支援が受けられます。また、親は子どもの成長を振り返ることができ、成長に合わせた支援の工夫を考えるきっかけになります。このファイルは、育成会が平成25年より実施している事業です。会員でなくても誰でも無料で説明会を開いています。

最後に、育成会では互助会制度（年齢問わず育成会の会員であれば入院時の付添給付が受けられる）を行っています。また、障害者年金の申請や成年後見制度の勉強会も実施しています。

この様にいろいろな取り組みをとおして、将来に向けて早い時期から皆が少しでも安心できる体制の構築を目指していきたいと思えます。